

Bコース①【介護と仕事の両立推進事業】

取組の実施状況

企業名	有限会社ぬくもり介護
所在地	東京都中野区中央1丁目52番7号
業種	(P) 医療・福祉
常用労働者数	9人
事業内容	デイサービス業
ホームページ	無し
1 ニーズ調査	
① 実施日	令和8年 1月 19日
②方法	アンケート用紙全従業員に手渡し配布
② 回収率	対象者（都内勤務全従業員） 9名のうち回収数 9名 回収率 100 %（回収数／対象者）
④調査結果 概要	（調査により明らかになった課題） 1. 現在の従業員の介護状況、介護対象者の有無について 現時点で介護を主たる理由として就業制限をしている従業員は多くない一方で、高齢の家族を持つ従業員が一定数存在しており、「将来的に介護が発生する可能性」は身近な問題として認識されている デイサービスという業態上、スタッフ自身も年齢層が比較的高めであり、介護は「他人事ではない」という意識がうかがえる 2. 今後の従業員の介護見込みについて 近い将来（数年以内）に 親・配偶者等の介護が始まる可能性を感じている従業員が複数存在 介護が発生した場合、 勤務時間の調整 夜勤・長時間勤務の継続 に不安を感じている傾向が見られる 「突然始まるもの」という認識が強く、事前準備ができていない層が多い 3. 就業規則・規程内の介護関係制度に関する認知状況について 就業規則や介護休業・介護休暇制度について 「制度があることは何となく知っているが、内容はよく分からない」という回答が中心 特に以下が不明確と感じられている どのタイミングで相談すればよいか どこまで会社が配慮してくれるのか 給与・処遇への影響 制度そのものよりも、「使える雰囲気かどうか」が見えにくい 4. 介護と仕事の両立に関する不安について 主な不安として多いのは以下の点 周囲（上司・同僚）に迷惑をかけてしまうのではないかと 急な休みが続いた場合の評価・雇用継続への不安 収入が減少することへの不安 特にデイサービス業務の特性上、 「人手が足りなくなることへの心理的負担」が強い 介護が長期化した場合を想定すると「今の働き方を続けられるか分からない」という声が見られる 5. 介護が続いた場合の望ましい働き方・社内制度について ニーズとして多い方向性は以下 勤務日数・時間を柔軟に調整できる仕組み 急な事情でも相談しやすい体制 一時的働き方を変えても、元に戻る安心感 制度そのものよりも、「相談できる」「一緒に考えてもらえる」ことを重視 長期的には、介護と両立しながら無理なく働き続けられる職場であることが重要視されている ② 抽出される主な課題 ☐現在は深刻化していないが、介護は確実に顕在化する将来課題である ☐介護制度の「存在」は認識されているが、内容理解・利用イメージが不足している

	☐ 介護が始まった際の相談ルートや会社の対応方針が見えにくい ☐ 周囲への負担感・評価への不安から、制度を使いにくい心理的ハードルがある ☐ デイサービスという業態特性上、突発的な欠勤・時短への対応に不安が集中している ☐ 長期介護を想定した働き方の選択肢（段階的な調整）が不足している ☐ 「制度整備」だけでなく、風土・コミュニケーション面の支援が重要			
2 プロジェクトチームの設置及び運営状況				
① 設置日	令和7年 12月 11日			
②メンバー	総計 2名（うち都内勤務の従業員1名） （メンバー内訳）社長、業務スタッフ			
③運営状況	開催日	開催時間	検討内容	参加者数
	12月11日	11:00-11:30	活動内容及びスケジュールの確認	2名
	1月22日	15:00-15:30	調査結果概要説明、取組案の提示	2名
	1月28日	11:00-11:30	取組案についての意見交換、確定	2名
3 策定した取組計画（内容及び取組時期）				
令和8年4月～ 定期的な個人面談の実施（年1回程度）				
令和8年5月～ 介護と仕事の両立に関する研修の実施（年1回程度）				
4 経営者・管理職への体験型研修の実施				
有り・無し（いずれかに○）				